

## 2. 観測データの自動整理ツールの作成

小出 栄治

地震観測データの整理に関するシステム開発の一環として、愛工大に設置されている ETNA 地震計、リアルタイム地震計、E-Catcher 地震計による観測データの自動整理ツールの作成を行った。内容は以下の2項目である。

### (1) 大学内建物データの収集整理機能の追加

図1に示すように、地域防災研究センターの免震建屋および土木建築学科棟の孔中に設置した地震計（AID）により地震観測を行っている。これらのデータを、他のAI-netの情報と同じようにWINデータに変換し、データサーバに転送し、自動整理できるように追加した。これにより、地盤条件の良い愛工大データに対する三河平野部の揺れやすさの比較・検討を行うことが可能となった。

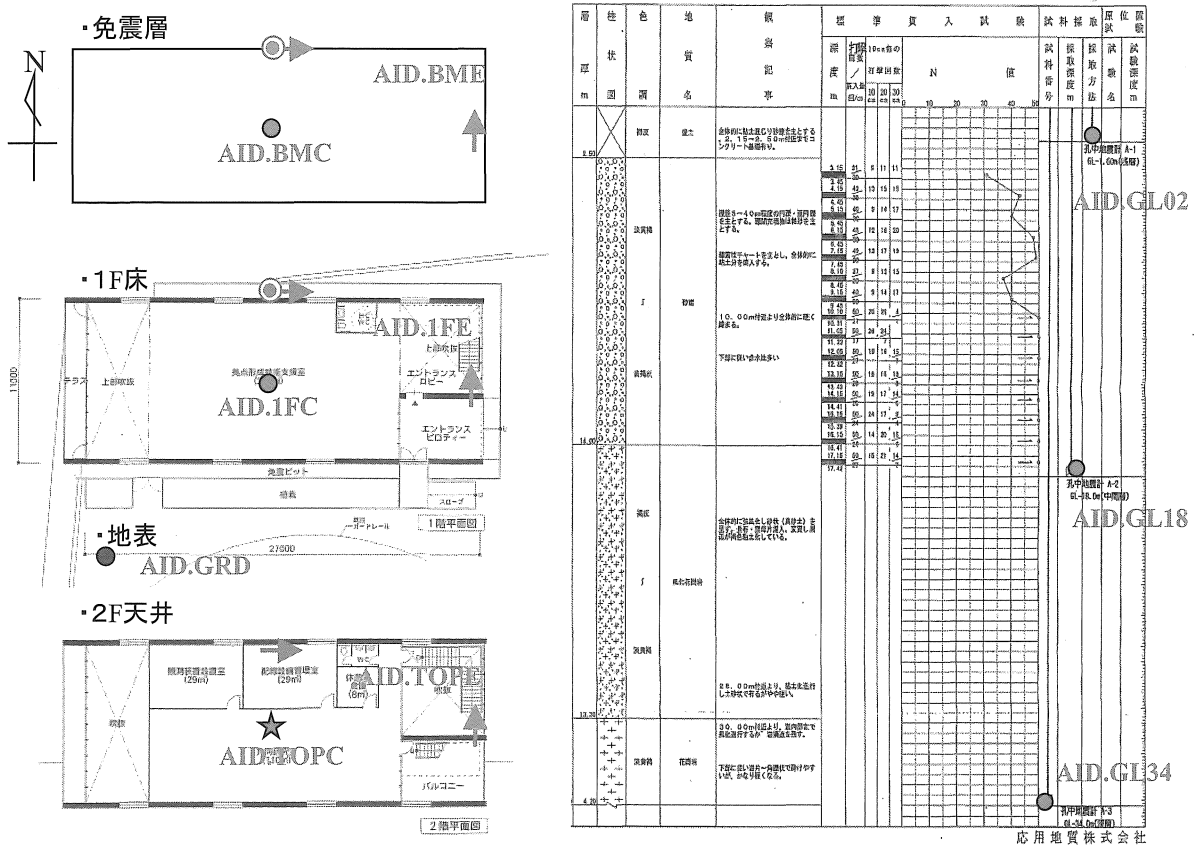


図1 地域防災研究センターおよび土木建築学科棟（孔中）の地震計の配置

(2) スペクトル演算、図化処理機能の追加

全地点のフーリエスペクトルを自動演算し、図化する機能を追加した。これにより管理者は、WEB上で、図2に示すような成分毎のスペクトル図を一覧表示できるようになった。

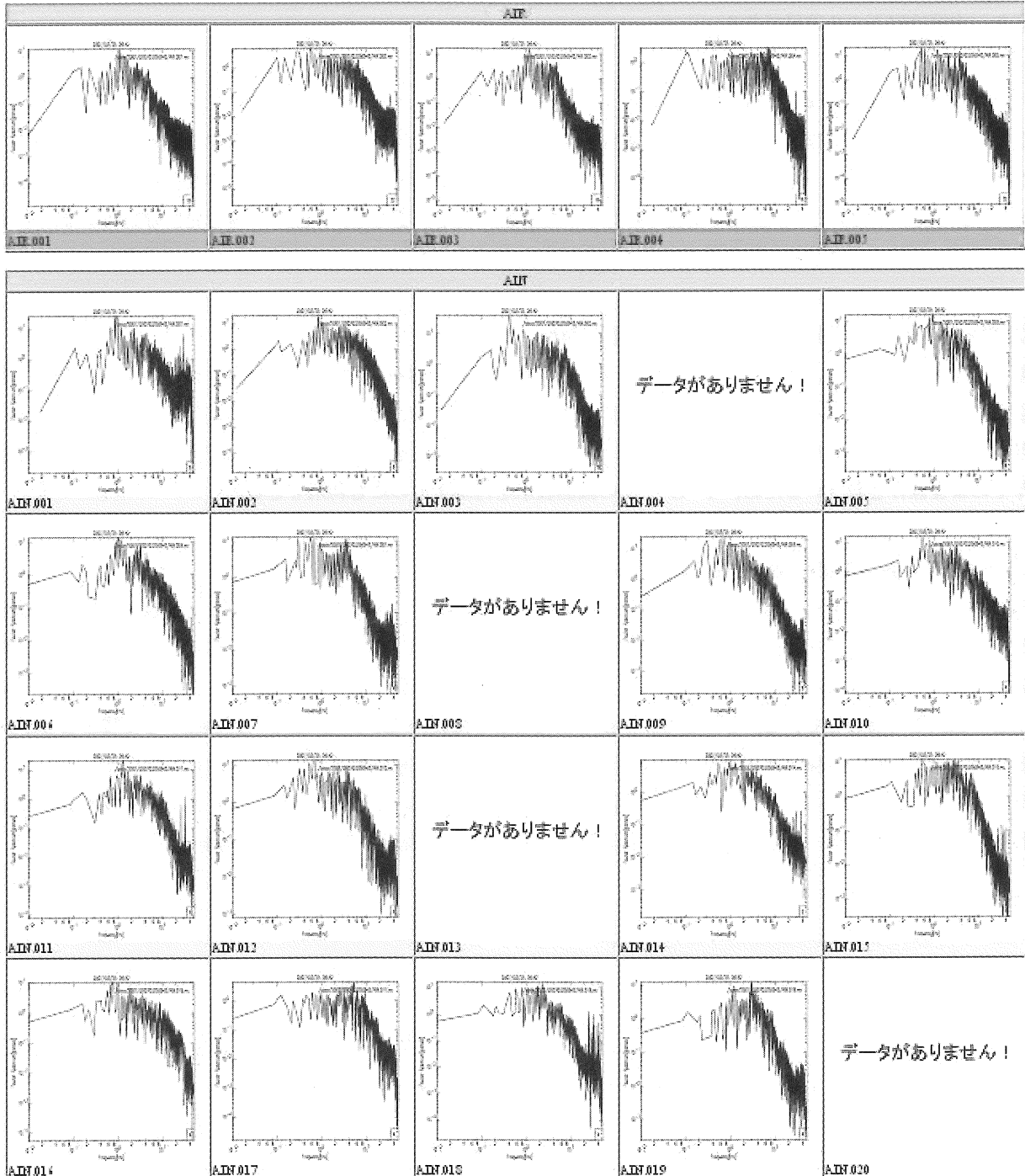


図2 Ai-net 上でのスペクトル図の表示例